

from the world

世界の国から

フィジー共和国

Republic of Fiji



カマル・チェティ氏

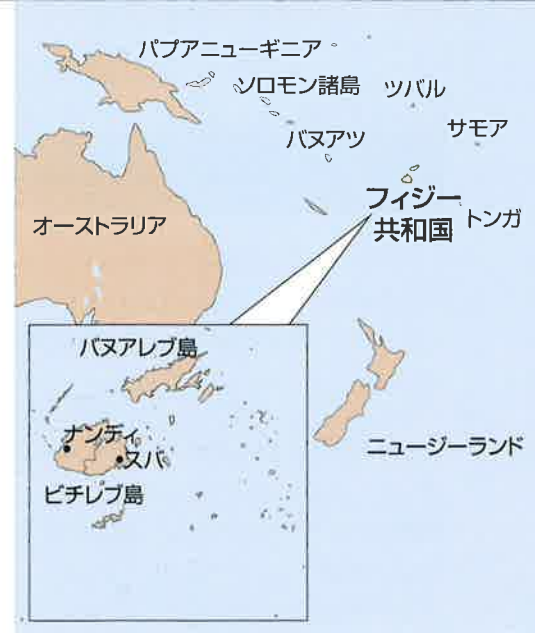
フィジー投資庁 投資部長

Mr. Kamal Chetty

Investment Manager, Investment Fiji



首都 スバ
面積 1万8,270平方キロメートル
(四国とほぼ同じ大きさ)
人口 約90万人(2017年、世界銀行)
政体 共和国
元首 ジョージ・コヌシ・コンロテ大統領
言語 英語(公用語)の他、フィジー語、
ヒンディー語を使用
通貨 フィジードル



直行便再開により広がるビジネスチャンス

フィジー共和国概況

フィジーは、南太平洋のほぼ中央に位置し、約330の島々で構成されています。季節は雨季(11月~4月)と乾季(5月~10月)に分かれますが、年間の平均気温は23~28度と温暖で、一年を通して泳げる常夏の島です。美しい自然に恵まれており、人々も穏やかでフレンドリーです。治安も大変よく、英語が公用語であるためコミュニケーションに支障がありません。一度来れば皆さん必ず気に入っていただけると思います。

今回は4回目の来日ですが、9年ぶりに直行便が再開されるこのタイミングで、フィジーでのビジネスの可能性についてご紹介できることを幸運に思います。滞在中は大阪で貿易投資セミナーを行ったほか、東京でラウンド・テーブル形式の投資懇談会を行い、好感触を得ました。また、大分及び秋田では、県や市の関係者との情報・意見交換や商工会議所を中心とする企業家グループとの交流なども行いました。



スバの街並み(写真提供: Daisuke Hirasawa)

南太平洋のビジネスハブ

フィジー経済は好調で、ここ9年間成長を続けており、今年も4.2%の成長率になると予想されています。インフラがどんどん改善されて新しいビルが建つなど、日々の生活の中でも成長を実感しています。

今後有望なビジネス分野としては、農業、観光業、エネルギー関係、製造業、不動産関係などが挙げられます。特に観光業では、国際会議ができる設備や高級ホテルの建設を目指しています。農業分野では、フィジーで作ったオーガニック製品を国内に卸すだけでなく、オーストラリアやニュージーランド、南太平洋の他の島々に輸出するといったビジネス展開も考えられます。

経済の安定に加え、国際的に見ても低い税率、様々な税制上の優遇策など、政府による投資家へのサポートも手厚く設けられています。例えば、免税地域(TFR)に200万フィジードル以上の投資をすれば13年間免税になるといった制度があります。また、首都のスバに次ぐ第二の都市であるラウトカに経済特区を建設中ですが、こちらでも様々な税制優遇策が提供される予定です。



ナンディのビーチ(写真提供: Yuko Kubozono)

日本とのビジネスに期待

現在日本からは、語学学校やチョコレート工場、オーガニック素材を使った高級化粧品製造など、様々な分野の企業が進出しています。観光国であるフィジーは環境への意識が高く、同じく環境にも人にも配慮している日本企業には良いイメージがあります。

今年7月からはフィジー航空による成田直行便が再開され、日本からの渡航者がさらに増え、ビジネスチャンスも急速に拡大することが予想されます。

フィジー政府はビジネスの決断が速い中小企業の進出を特に歓迎します。フィジー自体がそれほど大きな国ではないため、中小企業にとってはマーケットの規模としても丁度良いと思います。今回の来日でエネルギー関係、農業関係、観光業など50~60社の日本企業とお会いしたので、帰国後は適宜コンタクトをとり、関係強化に努めたいと思います。